

在宅医療の モデルとなる 先進的体制を構築 終末期疾患の痛みを 緩和する治療に力点



中島美知子 理事長・院長
国立信州大学医学部卒。日本内科学会認定内科医、日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医、日本緩和医療学会指導医。また難病指定医、自立支援指定医。



医療法人社団 ホスピティウム聖十字会 中島医院

TEL◎042-495-6727 E-mail◎newhope1@crocus.ocn.ne.jp
東京都清瀬市元町1-3-45
◎ 8:30~12:00 17:30~19:00(火曜日のみ) ㊟ 木・日曜日・祝日(外来休診)

<https://hospice-nakajima.com/>

祈りの心で患者支援 ホスピスの第一人者

「病むこと、老い行くこと、死に逝くこととの闘いを全面的に支援し、全人格の癒しと高いQOLをめざし日々の健康管理を支援する」

1995年に東京・清瀬市で開院した「医療法人社団ホスピティウム聖十字会中島医院」は、この倫理宣言に沿い、終末期患者をはじめとした全人的苦痛の緩和治療や総合的な医療・介護を365日24時間体制で実施している。病院ではなく住み慣れた自宅で行う先進的な医療・介護システムを、外来診療とともに築いてきた。外来診療、入院診療とともに在宅

診療が必須となった超高齢化社会で輝きを放ってきた医療拠点だ。日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医や日本緩和医療学会指導医等の資格を持つ中島美知子理事長・院長と、チャプレン(病院付き牧師)である中島修平専務理事夫妻の医療理論・哲学と経験、知識が人間性豊かな運営に表出する。医師教育にも力を入れる。日本緩和医療学会認定研修施設であり、近隣の総合病院から臨床研修医を多く受け入れている。

在宅ホスピス緩和医療 と在宅総合医療

終末期患者のための医療をホスピスというが、

在宅医療では家族 との小旅行なども 支える多職種連携・ チーム医療介護

また、できるだけ患者さんの自由を治療のために束縛しない方法を工夫している。無理でなければ、家族との小旅行など、日常的にサポートしている。

「医師をリーダーにした医療・介護スタッフとのコミュニケーションが24時間365日可能です。苦痛への緩和医療や在宅でのお看取りに至るまで、チャプレン訪問など、状況やご要望に応じた対応をします。また、看病で疲れたご家族の健康管理など様々な相談にも対応します。ご家族が倒れたら、

『中島医院』の医療・介護体制は、在宅医療に特化しているだけでなく、包括的重層的に組み立てられているのが特長だ。その柱は「在宅ホスピス緩和医療」とがん以外を対象にした「在宅総合医療」。「在宅ホスピス緩和医療」は、がんや難病で現代医学では治癒が不可能とみられる患者さんが対象で、『中島医院』は医療連携によって治すための治療と緩和医療を平行して進め、天国へ旅立つまでを一貫して総合的に治療する医療となっている。

ての人に訪れる人生の完成、永遠への旅立ちに向かう、すべての病気の人々を受け入れる、日本初のフルコースの在宅型ホスピスです。愛する人々とともに、住み慣れたわが家で、人生を振り返りつつ心安らかに満ち足り、互いに感謝に満ちて。もちろんその土台として、痛み苦しみや恐れがなく、最期の瞬間まで自分らしい日々を生き抜くこと、(人生を完成)することをサポートします。(死ぬ)お手伝いはしません。ご本人、ご家族、医療者三者間できめ細かい連絡、相談をしながら、インフォームド・コンセントによって、先端的な全人医療を提供します」

在宅医療という理想が成り立たないのです」

医療の具体的な内容には、多様なオピオイド(医療用麻薬)その他の鎮痛薬、鎮痛補助薬、携帯型デバイス、サブ注注入ポンプなどによる専門的な疼痛・苦痛コントロール、呼吸器に酸素療法、動脈血酸素飽和度測定、血圧脈波検査、動脈硬化化指数検査、中心静脈栄養法、経管栄養法、胃・腸ろう管理、輸液、胃管・尿管カテーテル管理、超音波検査、24時間ホルター心電計、骨密度検査などが含まれ、加えて医療連携によるCT、MRI、PET検査、上下部消化管内視鏡検査、透析など多岐にわたる。「在宅総合医療」は、が

ん以外の様々な身体の痛み、高血圧や心不全などの循環器疾患、気管支喘息や慢性気管支炎、肺炎腫、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、低肺機能症、呼吸不全などの呼吸器疾患、変形性脊柱管狭窄症、膝関節症、頸椎症などの骨筋肉の疼痛、関節リウマチ、坐骨神経痛などの疼痛、アトピー性皮膚炎や湿疹、老人性痒痒う症などのアレルギー性皮膚疾患、前立腺肥大、切迫性尿失禁などの泌尿器疾患、逆流性食道炎、慢性胃炎や肝硬変、慢性肝炎などの消化器疾患、がん合併した精神・心身症疾患、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多系統萎縮症(MSA)、認知機能障害などが対象。

24時間365日

「在宅総合医も24時間365日、電話連絡を受け、必要により訪問看護、医師の訪問診療や往診の対応を行っています。病状や介護度により医療保険と介護保険を組み合わせて利用できます。ご自宅をベースに、医療連携などの活用によって、すべての必要な医療・介護が可能です。また、医療保険での看護と介護保険での看護を病状に応じて組み合わせられた訪問看護も主治医やケアマネジャー、デイサービスなどのきめ細かい連絡を取りながら実施しています。訪問リハビリテーションの紹介も可能です」



後継者中島マリア
美智子医師(左)、
化学療法、緩和ケ
ア、在宅医療、一
般内科担当。

在宅医療は、
365日24時
間。医師の訪
問診療、緩和
ケア、在宅医
療、一般内科
担当。



家族の皆様のご意志決定を支援します。個々の治療法などについても、適切な告知の土台の上にインフォームド・コンセントで「一緒に進めます」

在宅医療の流れ 「人生を完成へと 生き抜く」

在宅医療を希望する場合は、まず家族か患者本人が外来診療を受診し、医師に相談。その上



くつろいだ雰囲気のカウンセリングルーム。

「在宅ホスピス緩和医療」
「在宅総合医療」を通じて、総合的・全人的痛み・苦痛の緩和治療に力点を置いていくのが大きな特長だ。



Total Pain
理論を創出し実践、世界普及した、デ
ム・ンシリ・ソナーダス医師との対談
録画の際に。同医師夫妻と中島修平
牧師、中島美知子理事長、1992年冬
ロンドン郊外のソナーダス医師の自宅
にて。

Total Pain 全人的痛み・ 苦痛とは

「当医院では、痛みや苦しみを可能な限り取り除いて、より高いQOLをもつて生き抜いていただくことを最優先してあります。痛みや苦痛は、手強いがんの痛みから心や、人間関係や仕事などが絡んだ心理的、社会的な痛みまで幅広いものがあります。これらの痛みや苦痛は、それ自体が疾病として私たちをむしばむ性質を持っています。痛みは、決して他の病気や傷害の付録ではなく、『痛み』そのものが独立した治療対象とされる必要があります。当院は痛みや苦しみを『総合的、全人的

的痛み Total Pain』として理解する痛み学に立つて治療を行っています。というのも人間が痛む痛みは、①神経生理学的疼痛要因(身体の痛み)に加え、②心理・精神的疼痛、③死に対する恐れに代表される宗教・スピリチュアルな疼痛要因、④社会的・経済的疼痛要因の四つの痛み・苦痛の要因が絡んでいるからです。たとえ、治るのが難しい病状であっても、『中島医院』は死ぬことを援助はしません。当然、人為的に死を早めることもしません。苦しみを付け加えてしまうことすらある最期の人為的な心臓マッサージや人工呼吸器装着にも、当院はきめ細かい説明・相談をしながら、患者さん、ご

で、チャプレンによるオリエンテーション・カウンセリングで、在宅医療をスムーズに始めるための説明をや質問をしっかりと受け、納得の上で在宅医療の契約を結ぶ。在宅医療がスタートとすると、患者さんの状態に合わせて、医師

や看護師などの医療・介護チームが、病状に応じて週に医師が何回、訪問看護が何回というふうに進める。また医師・看護師らと相談しつつ、ケアマネジャーが介護保険による生活面のサポートを行う。

介護保険を活用 「いつまでも家族と 一緒に生活したい」

「多くの高齢者・患者さん・家族の皆様は、『いつまでも家族と生活したい』という、切なる願いを持っています」

そこで『中島医院』は在宅医療のほかに、医院別館で「こもれび居宅介護支援事業所」を運営している。ケアマネジャーた

ちが医師、看護師らと相談しつつ、介護を希望する高齢者(一部は中島医院の在宅患者やその家族の相談を受け、介護保険の具体的な活用を、ケアプランを作成し実行に移す。また同じ清瀬市内で、通所介護施設「デイサービス愛といやしの家」を定員1日20名にて運営している。介護職員は全員が介護福祉士で、より良い介護をめざしている。入浴・食事・体操・排泄・様々な楽しい活動、また個別リハビリテーションも専門スタッフが利用者個々人の日常生活のニーズに合わせたリハビリ計画を立て実施する。体調管理には『中島医院』の看護師が連携し、緊急時には必要によ



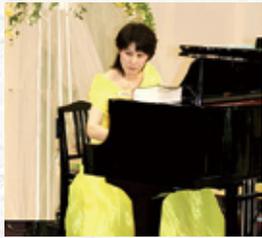
病院付き牧師による医療
カウンセリング。在宅医療
へのオリエンテーションを
得て、在宅医療をスム
ーズに始める。



患者さん、ご家族のための
音楽会。ゴスペル・シン
ガーRay Sidneyとゴス
ペル・グループ、指揮Ken
Taylor。



ソプラノ・ソロ、二見忍さん。



ピアノ、米永志奈乃さん。



患者や家族、職員の心のケアを音楽会を通して。

音楽療法を楽しく

「医療法人社団中島医院」のもう一つの特長は、「音楽」だ。朝礼でも一曲は全員が歌う。デイサービス愛といやしの家でも朝の最初のプログラムは、高齢者皆で歌う。春夏秋冬の歌、人生の折々の歌・賛美歌など。日本語を中心に、少しづつ英語・ドイツ語・ラテン語・イタリア語などの歌も混ぜレパートリーは130曲を超えている。歌うことでよく呼吸をし、歌詞を考えつつ、皆とリズムや音程、テンポを楽しくお仲間と合わせる…こうして身体と頭全体が目覚ましてきたら、体操へ進む。ボランテアと二部職員の聖歌

隊、Newhope Chapel

Choir が毎週金曜日朝1時間15分の練習を、ピアノ・声楽家・邦楽家(琴・尺八)ら専門家の指導・参加のもと、細く長く20年以上続けてきた。そして春夏秋冬、またニューイヤー、クリスマス、春のイースターで、患者さん・ご家族・ご遺族とともに明るい癒やしの音楽会を続けている。夏8月の召天者記念式では、ご遺族の悲しみ、また職員にとってもお別れした悲しみの癒やしの一助に貢献している。

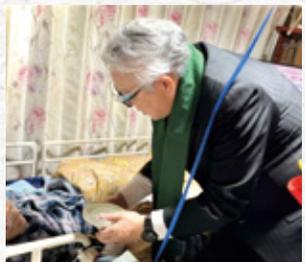
心と魂にとどく音楽は、心やスピリチュアル・ケアの素晴らしい担い手ともなる。

米国アスパシフィック大学神学部、大学院(学士・修士)、次いでフラー神学大学院で学び修士(MCJ)と牧師神学博士号を取得。帰国後、中島院長と救世軍ホスピス・チャレン就任、終末期医療の研究、臨床、啓蒙に携わってきた。

今と未来

「まだマダラ模様」の在宅医療・介護への挑戦

「患者さんおよび利用者とその家族の人格を尊重」「その人らしく生き抜くことを支援」「人間として全人的痛み(Pain)や苦痛・苦難から解放され心と体の癒しを支援」「死に直面したときも、共に闘い、痛み悲しみを乗り越えるために最後まで祈りの心で支援する」「小さな事を大きな愛をもって為す」。「医療法人社団ホスピティウ



中島修平 牧師 臨床牧師 による 在宅医療 での ケア。

日本に

「がんの痛みは恐くない時代」を開いたホスピスパイオニア・現役第一人者

こうした医療・介護システムを中島牧師・専務理事とともに築いてきた中島院長は、1976年、現・独立行政法人国立病院機構東京病院(東京都清瀬市)の若い内科

医師の時だった。当時は多くのがん患者には暗黒時代だった。「告知は虚偽告知」「苦痛は症状の一つだから、ある程度の治療で、あとは我慢」激痛の中で昏睡になり、悔いの多い死別の時代だった。中島(当時・間瀬)院長はその悲惨に心を動かされて、わが国で初めて、経口モルヒネ(ブロンプトン・カクテル)を癌末期の痛み

に導入、処方確立した。1978年学会発表。中島院長に厚生労働省より研究費が降り研究班を組織。そこから全国にこの痛み治療方法が広がってきた。日本に「癌の痛みは恐くない時代」が開かれた。さらに完全な痛みの治療方法を求めて米国の南カリフォルニア大

高齡化社会に突入した現代、がんと認知症等は、医療ニーズの双壁だ。そこへ新型コロナウイルスなど多くの感染症が殴り込みをかけている。健康保険が底をつくのでは、と社会に不安が広がる。世界各地の戦争とサイバー戦争、暴動、テロリズム、そして気候異変と

(ライター/中島修平)



101歳の誕生日を喜ぶ在宅医療と看介病や心のケアで、この日を迎えた。

学医学部に留学し、B.クルー教授の指導の下、ニューホープ疼痛総合研究所で、脳外科学、精神医学、牧師学、社会学、心理学などの「学際的チーム医療」による、がん疼痛や、難治性の痛みの治療法を研修。またUCLAでがん性疼痛の薬物療法を研修。帰国後、首都圏初のホスピスであった救世軍ホスピスの初代ホスピス長として5年「入院型」ホスピス医療を実践。その後1995年、中島専務理事と、わが国初のアメリカ的「在宅型」ホスピス、「医療法人社団ホスピティウム聖十字会中島医院」を現在の東京・清瀬市に創設、開業した。公私でのパートナー中島牧師・専務理事は、